



光言社

株光言社 〒150 東京都渋谷区宇田川町37-18 ☎03-3467-3105 FAX03-3468-5418

発送センター ☎03-3384-4225 FAX03-3384-4374



韓日対訳み言集(第一巻～第三巻)

祝福と理想家庭

축 복 과 이 상 가 정

●このみ言は、およそ210巻目標の先生の説教集の中で、40巻までの内容(1970年まで)を主題別に分類し、その中から、「祝福と理想家庭」に該当する部分だけを選び出して要約しました。

- 内容 第一巻 第1章 創造理想と男女の愛
第2章 真の父母と神の家庭
- 第二巻 第3章 祝福の意義と価値
第4章 祝福の過程
- 第三巻 第5章 完成のための公式路程
第6章 ご父母様の聖婚と祝福家庭



発行 成和社
定価 各1800円
(〒260円)

※教会総務を通してお求めください。

特別寄稿

還故郷講演(前編)

この特別寄稿は、昨年十一月二十六日に韓国全羅南道務安郡玄慶面ムファンギンヒョムシムンで、陽城李氏族を招いて統一思想研究院の李相憲院長が、「倫理観確立に関する思想講演会」と題して語られた内容です。

韓国統一思想研究院院長
李相憲

序言

普通、私たちの常識からみて、故郷を離れた人が、後に故郷に帰るのは当然のことであって、何かそこに特別の理由があるはずはありません。けれども文先生が指導された還故郷は、私たちが常識的に考えている還故郷とは全く性格が違います。それは歴史的意義のある還故郷です。神が文先生を通じて下された還故郷命令です。

神はなぜ文先生を通じてこのような命令を下されたので

でしょうか。それは遠い昔、神が特定の摂理的人物に、「故郷を去れ」という出故郷の命令を出したことに発しています。神は何らかの計画があつて過去に、摂理的人物に故郷を離れるように命令され、今回、み目が達成されたから、民族的メシヤとして、各自の故郷に帰りなさいという命令を下されたのです。

それでは神のみ旨とは何でしょうか。これからそのみ旨について話します。そのことを知ることによって、還故郷が皆様にも必要であるということがお分りになると思いますが。

一 理想郷を求めるための出故郷命令と遷故郷命令

(一) 出故郷とは何か

神は摂理的人物、すなわち義人たちに対して出故郷の命令を下しました。義人たちは、善の心と天を尊敬する心をもつて、天のみ旨に従い、善に生きようとする人々です。このような義人たちは、たいがい故郷を善で平和な美しい故郷にしたいという夢を持っています。ところが故郷の人たちは、その義人たちの幼少の時代のことをよく知っていますから、義人たちが故郷を理想村にするという抱負や夢を話しても、だれも信じないのです。そればかりでなく、かえって嘲笑します。そのために聖書には「義人は故郷では尊ばれない」という言葉があるのです。

ところで、人々が自分の故郷を理想村（ユートピア）にしようとすることは人間の夢である前に、まず神の夢であり、理想でありました。今日の世界をながめてみれば、価値観、倫理観の崩壊現象が目にあまるほど悪化しています。不正、腐敗、詐欺、強盗、殺人、放火、破壊、拉致、テロ、暴力、麻薬中毒、アルコール中毒、淫乱、女性の倫落、家庭の崩壊、背倫、闘争、衝突、対立、相互不信、伝統の無

視、権威の無視など、歴史上に起きた罪悪が一つ残らず再現して、波が陸地を襲うように政治、経済、文化、教育、社会等のあらゆる領域を襲っています。このまま行けば、国も世界も無法天地と化さないとはいえません。このような道徳観念の廃退現象が農村にまでも波及し、私たちの故郷にもいろいろ良くないことが毎日連続的に起きています。

このような故郷を、善にして美しく平和な故郷にしたいというのが、歴史以来の神の切実な念願でありました。それぞれの故郷を正しくつくり直すことによって、世界平和が成就されるからです。このような理想が神にあったので、神と同じ理想や夢を持った人物がいれば、神は彼らを立てて、彼らの故郷を理想村につくり直そうとされるのです。ところでその人物は夢だけは持っていますが、具体的な方法は分かりません。また故郷では、なかなか理解されません。そこで神はその人物を故郷から引き出して、異郷の地で訓練させます。すなわち、故郷を平和な理想村につくり直す資格を勝ち得るための訓練をさせるのです。

(二) 出故郷は訓練期間である

理想村を建設する資格とは、まず第一に、愛の精神と、

んでした。

それではそのような出故郷をして苦しい訓練を経た多くの義人たちが、果たして理想村建設の資格を勝ち得たでしょうか。勝ち得なかったのです。義人がそのような資格を勝ち得るには、人の一生はあまりにも短かったのです。その資格を得るために、愛をもつて数多くの苦難と戦ううちに、いつの間にか一生の終わりが訪れたのです。あるいは迫害によって殉教したこともしばしばあったのです。

(三) 義人の公式路程は出故郷である

したがって神は一人の義人が倒れば、新しい義人を再び出故郷させて、先の義人が成し得なかった訓練の部分を引き継がせて、さらに訓練させたのでした。リレーの時に、先の走者が一定の距離を走ると次の走者にバトンを渡します。そうすると次の走者はまた一定の距離を走って、次の走者にバトンを渡します。ちょうどそのような方法で、神は義人たちを訓練されたのでした。そして、ついにアブラハムが出故郷して二〇〇年後に、最後の走者として一人の義人が現れて、先人たちが築いた基盤を最終的に引き継いで、理想村建設の第一次の資格を勝ち得るようになりました。それがすなわち洗礼ヨハネです。

犠牲や奉仕の精神を勝ち得ることをいいます。理想村は金や施設でもって絶対建設されません。一つの村を理想村にするためには、いかなる逆境においても、人のために尽くす愛をしっかりと持たなければなりません。また犠牲奉仕の精神を持つて、逆境を克服しなければなりません。自分を迫害する人までも、憎まないで、愛で抱擁しなければなりません。そうするためには自分の欲心をなくさなければなりません。そしてひたすら、隣人のため、氏族のため、国のため、さらには人類のために尽くす心、すなわち徹底的な犠牲と奉仕の精神を持たなければなりません。

これは厳しい修道の生活となります。このような愛を母体とする「ために尽くす心」、「犠牲奉仕の精神」は、最も苦しい訓練を通じてのみ得ることが出来ます。このような訓練のために、神は四〇〇年前に選民イスラエルの祖先であるアブラハムを故郷の地、カルデアのウルから引き出しました。すなわち彼に出故郷の命令を与えて、故郷を出るようにしたのでした。その後、今日に至るまで、数多くの聖人、賢人、予言者、愛国者、宗教の創始者、道人、忠臣、烈士など、多くの義人たちが、義と善の実現のために、我知らず神に導かれて出故郷をしたのでした。そして、数多くの迫害を乗り越え、苦痛の路程を歩まなければなりません。

ところで第一次的な資格を勝ち得ただけでは、理想村建設に成功するための完全な資格とはなりません。故郷を理想村にするためには、神の真の愛と真の真理が絶対に必要になるからです。理想村建設の具体的で詳細な設計は、神の真なる真理にあるのであり、理想村の和合の力は神の真なる愛にあるのです。

ところで無形なる神は、真なる真理と真なる愛を義人たちに直接に与えることはできません。なぜならば、たとえ彼らが神の命令に従って故郷を出て苦難の道を歩いたとしても、彼らは罪の祖先の後孫ですから、サタンの讒訴条件が残っているのです。それで神は、霊肉の実体をもった神の一人子を第二アダムとして地上に送り、彼を通じて真なる真理と真なる愛を義人たちに直接伝えるようにしたのであります。その方こそ救世主であるイエスです。そして、真なる真理と真なる愛を最初に受け継ぐべき第一の義人が洗礼ヨハネでありました。

したがって出故郷した後、苦難の道を歩いていた洗礼ヨハネが成すべきことは、まずイスラエル民族を率いてイエスを迎え、イエスの教えに無条件に従うことであります。そうすればイエスは、神が世界的に準備した数多くの義人たちを呼び集め、彼らに真理と愛を相続させて、各自を還



陽城李氏氏族を招いて講演する著者

たかも海で自由に泳ぎ回っていた魚を捕えて地上に置けば、魚は再び海、すなわち自分の故郷が恋しくてあがいたりするのと同じことです。

エデンの園は人間の始祖、アダム・エバの故郷です。ア

故郷させて理想村を建設したはずで。

(四) 人間はなぜ理想世界の建設を試みるのか

しかし残念ながら、洗礼ヨハネは責任を果たすことができず、かえって彼が先頭に立ってイエスを不信したのでした。そのために理想村建設の具体的設計（すなわち真なる真理）と真なる愛を義人たちに伝える千載一遇の機会を逃がしたのであり、痛恨にも、イエスは十字架の刑を受けたのでした。それで、理想村であるユートピアを建設する神の夢は実現されず、苦痛と不幸と戦争の歴史が再び延長されたのです。

ではなぜ人間は理想村、理想社会を建設しようとするのでしょうか。人間はだれでも理想を持っています。人間が理想を持つということは、平和と自由と繁栄と幸福に満ちた生活をこい願うということです。そしてそのような理想が自分の故郷で実現されるのが人間の夢です。すなわちそのような理想的な生活を、自分の家族や親戚と共に楽しみたいというのが人間の本性です。

ではなぜ人間はそのような理想を持つようになったのでしょうか。それは人類の祖先であるアダム・エバが、墮落によって地上の樂園から追放されてしまったからです。あ

ダム・エバが墮落しなかったならば、エデンの園は正に平和と自由と繁栄と幸福が充滿した美しい理想郷、理想村となつたでありましょう。アダム・エバが墮落する以前、彼らは神が創造された神の直接的な子女であつて、神の真なる愛を實踐していたはずで。ところがアダム・エバはサタンの誘惑に陥つて墮落したために、追放され、その時から人間は不幸と苦痛の生活をせざるをえなくなったのです。

しかし、苦痛と不幸の生活は本然の生活ではないために、人間はあたかも陸に上げられた魚が海を恋しがっているように、平和と幸福の世界を恋しがりながら、一生を苦痛の世界で生き続け、それぞれの人生を終えたのでした。言い換えれば、人間が理想を持つようになったのは、人類始祖が理想郷を失い、異郷で苦しみながら理想郷を夢見て生きようになつたからであり、その後孫である人類も、同じように理想郷を夢見るようになったのです。それゆえ義人たちは理想郷を実現しようと試みるのです。

(五) 出故郷と理想郷

では、洗礼ヨハネが責任を果たさずしてイエスが十字架に亡くなった後、神の摂理はどうなつたのでしょうか。神

のみ旨は、人間の過誤により延期されることはあっても、

放棄されどか、断念されることは絶対ではありません。したがってイエスの十字架以後、神は再び義人を出故郷させて、愛による和合と犠牲奉仕の生活をなし得るように、再び苦しい訓練をさせました。その間に、多くの犠牲者、殉教者たちが続出したのです。

特に韓民族はイエス以後、選民として立てられたので、多くの義人たち（道人、予言者、愛国者、忠臣、烈士、宗教指導者等）がこの地に続出して、訓練のバトンを引き受けながら、愛と犠牲と奉仕の生活を続けてきたのです。例えば、李舜臣將軍とか柳寛順烈士などを含めて、多くの愛国闘士たちが侵略者である日本の軍国主義と闘い、犠牲の祭物となりました。また仏教、儒教、天道教、キリスト教等の多くの宗教人たちが不義と闘って殉教しました。例えば仏教の異次頓、儒教の死六臣、天道教の崔水雲、崔時亨、全奉準、またキリスト教の李承薫、李家煥、丁若鐘、金大建等、多くの殉教者が現れました。このような愛国闘士が国のために犠牲になったのは、国を独立させ、独立した国家の中で各自の故郷を理想村にするためでありました。また信仰に燃える宗教人たちが、不義と闘いながら殉教したのも、善なる平和な故郷をつくりたいという念願が

あつたからです。

例えば、仏教の夢は地上に蓮華蔵世界を実現することであり、儒教の夢は地上に大同世界を実現することです。また天道教の夢は地上に事人如天（天に對するようになに仕える）の理念が実現された后天開闢の世界、すなわち地上天国を実現することであり、キリスト教の夢は地上に天国をつくることでした。すべてが愛に満ちた平和な世界であるという点で一致するのです。

このようにして数多くの義人たちが出故郷した後に、愛と犠牲と奉仕の精神を勝ち得るために厳しい訓練をさせた神は、この地上に二〇〇年前と同じく、訓練された義人たちに真なる真理と真なる愛を授け、彼らをして理想村を建設させるために、ついに再臨のメシヤを降臨させたのでした。その方が正に今日、世界的な宗教指導者として名声の高い文鮮明先生なのです。

(六) 理想世界建設のために来られた文鮮明先生

ところで遺憾ながら、彼らは、その間に神が精神訓練をさせて再臨のメシヤを迎えるように準備した多くの義人たちと同じく、再臨のメシヤに対して背を向け、かえって迫害したのでした。それで再臨のメシヤの道もまた受難の道、

次の道とならざるをえなかったのです。しかし少数ですが一部の人々は、民族と人類を代表して、その方を迎え、その方の指導を受けながら、ともに苦難の道を歩きました。

文先生はその間、六回も牢屋に入りましたが、少しも屈せず再臨の経綸を展開してこられました。のみならず自らが理想村建設のために義人たちを呼び出して（すなわち出故郷させて）、今日まで四十年の間、厳しく訓練をされたのです。そうするうちに、真なる真理と真なる愛でもって万民を感化させて、怨讐までも愛で自然屈伏させるという模範を示されました。このような率先的な模範を通じて、出故郷した義人たちを厳しく訓練されたのです。

それで、文先生によって出故郷した全世界の数多くの義人たち（統一教会の信徒たち）は、その間の苦しい訓練を通じて、四〇〇年前のアブラハムの出故郷以後の数多くの義人たちの愛と犠牲と奉仕の精神を受け継いだ立場で、すなわちアブラハムが発した厳しい訓練のバトンを受け継いだ最終走者となって、再臨のメシヤを通じて、神の真なる真理と真なる愛を相続することができたのです。そしてついに、全人類は故郷の地に帰り、理想郷を建設する資格を受けようになりました。つまり、再臨のメシヤによって指定された氏族メシヤの資格を神から認められて、

今回、多くの天的な氏族メシヤが誕生したのです。

(七) 還故郷の氏族的メシヤ

四〇〇年前に神がアブラハムに「故郷を去れ」と命令されたのは、出故郷させて、愛と犠牲の精神を完全に勝ち得させた後に、メシヤを降臨させて、メシヤの指導のもとに故郷に帰って理想郷を立てるようになるためでした。しかし、その最初の計画はいろいろな理由で延期されました。そしてついに今日に至り、最終の走者たちが現れて、初めて彼らに還故郷命令がなされたのです。それで神様が出故郷命令を下してから、還故郷命令を下されるまで四〇〇〇年という長い年月を経たのです。その間、数多くの義人たちが、この日のために犠牲の血を流したのです。そして、この世を救うために来られた初臨のメシヤと再臨のメシヤの路程は、筆舌に尽くしがたいほど、凄惨（せいさん）そのものでした。このような歴史的に悲惨な内容をもっているのが「氏族的メシヤの還故郷」という名称なのです。

ところで氏族的メシヤの資格を認められた私たちは、本来に人々を救い得る能力を持った文字通りのメシヤであるかといえ、決してそうではありません。いろいろな状況のもとで、すべての困難な問題を克服しながら、本当に理

想村を建設し得る能力を持つているかといえは、そうであるとはいえません。ただ私たちは、過去数十年の間に苦難を耐えながら、隣人に対して犠牲的奉仕をする基礎訓練を受けただけです。天の命令が下れば、どんな命令でも従おうという心の覚悟はできています。これを比喻すれば、杖のごときものです。杖そのものは非常につたない木の棒でしかありません。けれども、それがいったん指導者の手に握られれば、方向を示し、不義を打ち、指導者の歩行の助けともなるのです。

これと同じく氏族メシヤという称号を受けた我々は、木の杖のような非常につたない者です。けれども神と再臨のメシヤは、このような我々を理想郷建設の杖として握られ、氏族メシヤという称号を与えて、理想郷を建設しようとされているのです。言い換えれば再臨のメシヤが、神に代わって不足な我々を立てて、故郷の地に理想郷（神が切に願われ、人類も願ってきた理想郷）を立てようとされているのです。ともかく神とメシヤがつたない我々に氏族メシヤの資格をいったん認めたい以上は、「氏族メシヤである」という事実だけは皆様にも認めていただきたいのです。

Ⅳ 氏族メシヤの宣布

ある機関の機関長が任命を受けて新たに就任する時、就任式において、「不足であります、これから私がこの機関の責任を引き受けます」と宣言するでしょう。

このような宣言が氏族メシヤたちにも必要です。すなわち古い時代が過ぎ去って新しい時代が来るのですから、その時代の節目をつくっておくために、氏族メシヤの宣言が必要なのです。今日に至り、人類歴史以来初めて、人類の願いであるところの理想村を始めようとする運動が始まりました。すなわち新しい時代が始まるうとしています。氏族メシヤによって新しい時代が動き始めました。言い換えれば、神によって氏族メシヤたちが任命されたわけですが、ここにおいても新しい時代の開始を知らせる宣言が必要ではないでしょうか。それで私と、同じ故郷出身の李インキユの二人が、この席上で、過去・現在・未来の陽城李氏の全氏族を代表する皆様の前で、氏族メシヤとなったことを正式に宣布しようと思えます。この宣布は宣布文を朗読する形式でもって行わせていただきます。

宣布文

「一九九一年十一月二十六日、全羅南道務安郡玄慶面、陽城李氏招聘、倫理観確立に関する思想講演会において、

過去・現在・未来の全陽城李氏氏族を代表する皆様の前で、陽城李氏第二十六代の李相憲と第二十四代の李インキユは神と再臨のメシヤの命によって、各々陽城李氏の氏族メシヤとなったことを厳肅に宣言します。」

(ウ) 還故郷のもう一つの理由

(この項目の内容は、韓半島の南北総選挙への対備に関するものであって、著者の了解のもとで省略します)。

一 還故郷活動の具体的方法

それでは還故郷の具体的な方法は、何でしょうか。すなわち故郷に理想郷を建設する具体的な方法は、何でしょうか。

(一) 新しい価値観の伝達

還故郷活動の具体的方法は、一言でいえば新しい価値観を伝達することであり、新しい倫理観・道徳観を伝えることです。ここでいう価値観、倫理観、道徳観は同じ意味のことであって、いかに生きるのが人間の真なる生き方であり、善なる生き方であり、美なる生き方であるかという問いに対する理解のことです。我々の祖先たちは、昔から一

定の倫理観、道徳観、価値観を持っていました。すなわち敬天愛人とか、三綱五倫とか、弘益人間などがその例です。新羅時代には花郎道の世俗五戒とか、忠臣烈士の盡忠報国の精神や、数多くの孝子烈士の孝誠、誠実、純潔の精神などがありました。これらはすべて祖先たちが持っていた立派な価値観の表現でありました。このような価値観を広く国民たちが守る時、その国は平和と繁栄を成したのであり、このような価値観が守られなくなった時、その国は混乱と無秩序に陥って、民衆は塗炭の苦みを受けるようになったのです。

今日、わが国をはじめとして、全世界には、不正腐敗、殺人、テロ、拉致、強盗、放火、退廃、墮落、麻薬中毒、衝突、対決などがあふれています。世界がすべて混乱の巷に陥っています。このまま放置すれば、国と世界は無法天地と化するでしょう。このような世界的な大混乱を收拾して、世界と国家に真なる平和を定着させるために、文先生は今回、全世界の統一教会の信徒たちに各自の故郷に帰って新しい価値観運動、新しい倫理観・道徳観運動をするように指示されたのです。ただし韓国の場合、南北統一すなわち南北総選挙に對備しなければ理想郷の建設は不可能であるために、南北総選挙への對備も還故郷の目標の一つ

書評

がんばれ！愛天夫婦



著者 太林 武
発行所 光言社
B6判 一二四頁
定価七〇〇円(税込)

祭物精神と真の愛



著者 神山 威
発行所 光言社
B6判 一二七頁
定価五〇〇円(税込)

になっていきます。

ここで新しい価値観、新しい倫理観・道徳観という名称に関して、「新しい」という意味を考えてみます。これは常識的な意味の「新しい」ということであって、過去になかった新しいものという意味です。すなわち過去になかった新しい価値観、過去になかった新しい倫理観・道徳観のことをいいます。ここに過去の価値観は立派であるから、それを再び用いればよいのではないか、なぜ新しい価値観が必要なのかという疑問が起きるかもしれません。しかし過去の価値観は立派ですが、今日に至り、地に落ちてしまいい、今日の人々はそれらを顧みもしません。これはその価値観が不十分であるからです。いかなる時にも、だれにでも受け入れられるような価値観であってこそ、初めてすべての混乱を收拾し得るのです。そのような価値観は今までになかった新しい価値観でなくてはなりません。

(一) 新しい価値観とは

では、新しい価値観はどういう点で新しいのでしょうか。それは、神を根拠とした価値観であるという点です。すなわち、神の真なる真理と真なる愛から導き出される価値観が正に新しい価値観であり、真なる真理と真なる愛から導

き出される倫理観・道徳観が新しい倫理観・道徳観です。

神は真なる真理と真なる愛の主体であると同時に、絶対者であり、永遠不変であるために、神から導き出される新しい価値観は絶対的価値観です。また神は永遠不変の方ですから、絶対的価値観も永遠不変です。そして神は遍在性ですから、絶対的価値観は古今東西を問わず、だれにも適用される価値観です。したがって、自由世界にも共産世界にも必要なものです。言い換えれば、今日の自由世界の混乱を收拾し得る最善の方案はこの絶対的価値観であり、共産世界の混乱を收拾し得る最善の方案もこの価値観です。したがって南と北の混乱を根本的に、また恒久的に收拾し得る価値観が、この新しい価値観であり、絶対的価値観です。そしてこの新しい価値観は、神の真なる真理と真なる愛に基づいた価値観です。

したがって偽りの真理に基づいた価値観は、真なる真理と真なる愛に基づいた価値観の前には無力でしかありません。本来、偽りは真の前に無力なのです。あたかも闇は光の前には即座に消え失せるのと同じです。金日成の価値観である主体思想は、神を否定する偽りの価値観です。したがって、真なる真理と真なる愛に基づいた絶対的価値観の前には、それは完全に崩壊してしまうのです。(つづく)

一九九一年九月二十七日、日本統一教会の会長として神山威氏が就任されました。

前任の久保木修己・現日本統一教会名誉会長はその交代式の時、「七十二年に神山氏をアメリカに派遣するとき、「いざずれあなたの時が来る。今はアメリカで頑張っておいてほしい」と言ったことがあります。そして、うれしいことに、今やその時が来ました」と言って、神山氏を迎えられました。

本書は、九一年九月十八日に開催された「統一教会全国信徒大会」(東京ベイNKホール)での挨拶から始まり、全国巡回復興会で語られた神山会長の講話を一冊にまとめたものです。

七二年の渡米以来、文鮮明先生のもと、ワシントン大会(五十万人)をはじめとする数々の大会の総指揮を執り、また、ダンペリーにおいては文先生より直接、人間復帰の模範を示された体験のある神山会長の言葉には、力があります。(T)

壮年婦人教会員が、信仰生活を全うして、理想的な家庭を築くまでには、青年と同じように様々な薄減条件を清算しなくてはなりません。

そこで、長年にわたって壮婦教会員の信仰生活上の相談に、的確なアドバイスをしてきた著者が、特に質問の多かった事柄を選び出して、ていねいに回答して手助けをしてくれます。

回答項目は、飲酒、喫煙への対処をはじめ、聖別家庭の心構え、断食の仕方、

さらに仕事とみ旨の両立、み旨と家庭の両立などに及びます。信仰生活を始めたばかりの家庭やしばらく信仰生活を送って、さらに飛躍したい方々にとって、よき相談相手となることと思います。

なお後半は、主人伝道や自己変革しながら成長していく過程を、エッセー風にとまとめています。著者が実際に話をして、相談のつた家庭がモデルなので、分かりやすく納得しやすい読み物となっています。(関)